

農作物技術情報 第7号 果樹

発行日 令和4年 9月29日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

◆ りんご 天候の不順により熟度は揃わないものと予想されますので、すぐりもぎを徹底しましょう。

1 生育概況

(1) 果実生育（表1）

9月1日時点の生育診断圃の果実生育（横径）調査結果を県平均でみると、「ジョナゴールド」、「ふじ」ともに概ね平年並みとなっています。

(2) 果実品質（図1～3）

9月21日時点の生育診断圃の「ジョナゴールド」の果実品質（県平均）は、糖度、硬度は平年より低く、デンプン指数は平年よりやや高く、熟期は平年より遅いと推測されます。しかしながら、本年の開花は平年より早かったため急速に硬度が低下する恐れもあります。中生以降の品種については食味を重視し、すぐりもぎを徹底してください。

また、仙台管区气象台発表の1か月予報（9/22発表）によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと予報されています。引き続き最新の気象情報と各地の普及センターやJA等が提示する情報を確認し、適期収穫に努めてください。

表1 生育診断圃における果実生育（横径）状況（9月1日現在）

単位：mm

市町村	ジョナゴールド					ふじ				
	本年 (R4)	平年	比	前年 (R3)	比	本年 (R4)	平年	比	前年 (R3)	比
岩手県農業研究センター	87.1	84.4	103%	85.0	102%	79.8	78.6	102%	75.6	106%
盛岡市三ツ割	83.4	83.2	100%	84.2	99%	75.5	77.1	98%	71.5	106%
花巻市石鳥谷 ^{※2}	83.9	83.5	100%	78.6	107%	79.7	76.1	105%	71.2	112%
奥州市江刺樽輪	79.4	80.8	98%	77.9	102%	72.3	77.8	93%	71.0	102%
一関市狐禅寺 ^{※3}	82.5	83.5	99%	85.2	97%	78.0	75.6	103%	74.9	104%
陸前高田市米崎	83.7	83.0	101%	84.8	99%	78.9	76.9	103%	74.3	106%
宮古市崎山						83.6	78.9	106%	72.5	115%
二戸市金田一	84.5	83.8	101%	81.3	104%	78.9	78.9	100%	76.8	103%
県平均値 ^{※1} （参考）	82.9	83.0	100%	82.0	101%	78.1	77.3	101%	73.2	107%

※1 県平均値に農研センターのデータは含まれていない。

※2 R4年度より定点が変更となったため、平年値は花巻市上根子（前定点）の値を使用。

※3 R2年度より定点が変更となったため、平年値は一関市花泉（前定点）の値を使用。

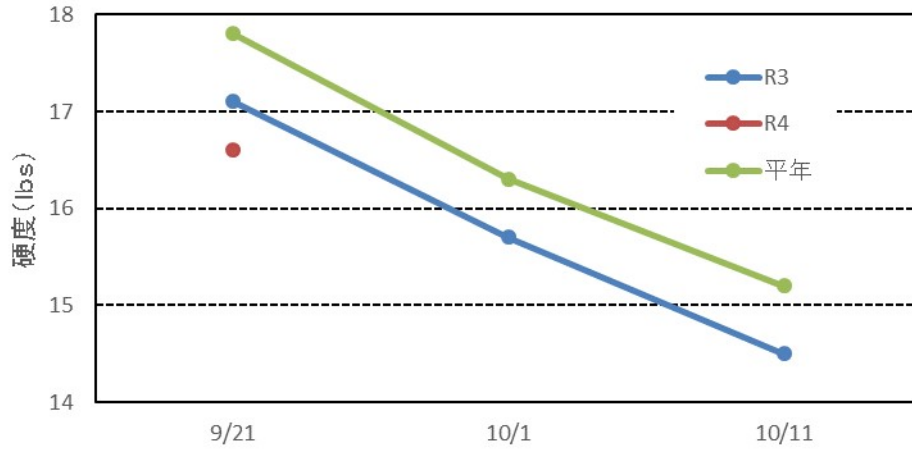


図1 ジョナゴールドの硬度の経時変化

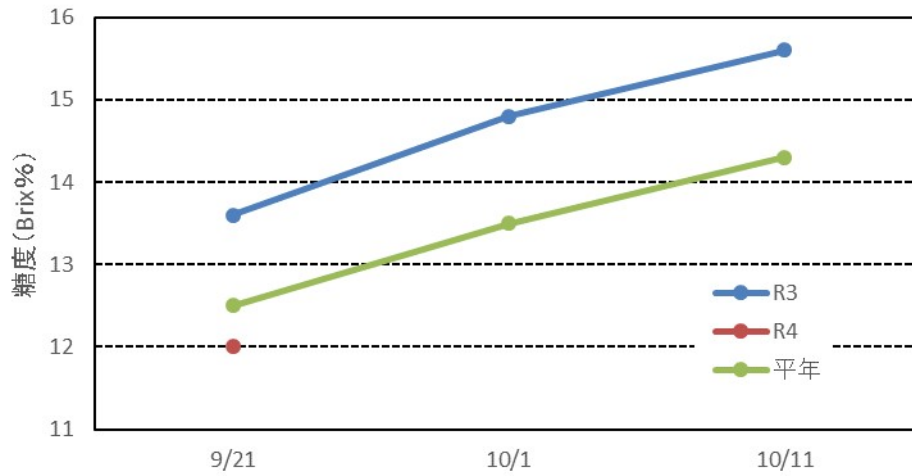


図2 ジョナゴールドの糖度の経時変化

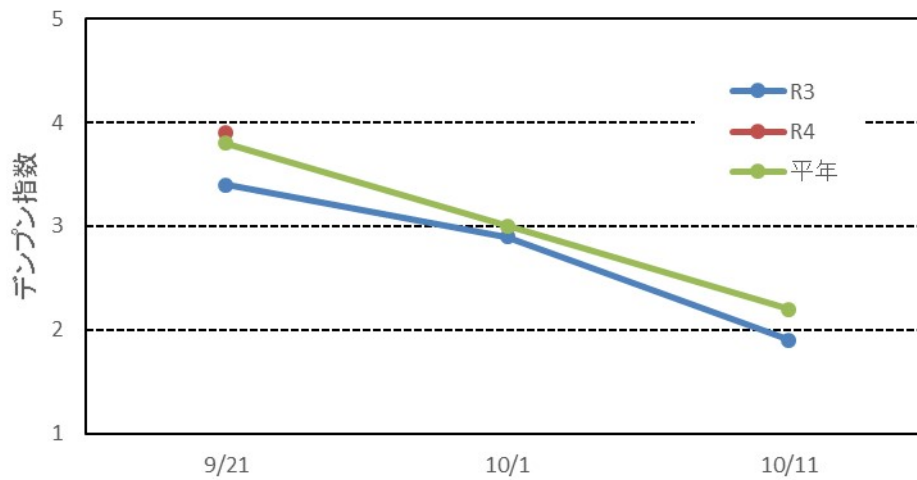


図3 ジョナゴールドのデンブンプン指数の経時変化

2 栽培管理のポイント

(1) 「ジョナゴールド」等中生種の管理

- ア 「ジョナゴールド」などの中生種の着色管理は、1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを収穫まで2～3回行い、さらに、玉回しと同時に適度な強さで葉を摘みます。
- イ りんごの着色適温は10～20℃であり、気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進まないため、過度の葉摘みとならないよう注意します。
- ウ 「ジョナゴールド」は着色が不揃いとなりやすいので、すぐりもぎが必要です。そのため、着色の進みに応じて葉摘みを行い、玉まわしはすぐりもぎの時にも行う等、回数をできるだけ多くすることが重要です。
- エ 「ジョナゴールド」は収穫が遅れると果肉の軟化、果皮の油上りが発生して、販売上不利になりますので、適期収穫を心がけてください（表2）。

表2 中生・晩生種の収穫期における果実品質の目安

品種	硬度 (lbs)	糖度 (%)	ヨード でんぷん 反応指数	備考
ジョナゴールド	13以上	13以上	2～3	
王林	14以上	14以上		
シナノゴールド	15程度	15以上	1以上 1以下	越年販売 年内販売
ふじ	14以上	14以上	1～2	

(2) 「ふじ」の着色管理

- ア 「ふじ」は、着色期間が30～40日間と長いため、陽光面が着色してきた頃（9月下～10月上旬）と、10月中～下旬の2回に分けて葉摘みを行います。1回目の葉摘みは、果実に密着する葉を摘む程度とし、2回目は適度な強さまで葉を摘み、陽光面の着色が進んできたら葉や枝カゲを残さないよう玉回しを行います。
- イ 過度の葉摘みは、葉が少なくなって果実の着色やみつ入りが劣り、翌年の花芽の充実が悪くなるなどマイナスの影響が出ますので注意してください（表3）。

表3 ふじの摘葉が果実品質に及ぼす影響

（青森りんご試 S61）

処理区分	果周増加量(mm)	糖度(%)	蜜の発生(%)	表面色	翌年の開花率(%)
全葉の摘葉	0.74	13.6	0	3	25.0
新梢葉摘葉	3.60	14.5	31	3	58.4
果そう葉摘葉	6.85	14.9	77	4	65.1
無摘葉	7.40	14.9	86	4	66.6

（摘要）摘葉処理は10月3日～10日に行った。果周増加は10月11日～11月11日までの分。

(3) 「シナノゴールド」の収穫

- ア 年内販売の場合は、表2の収穫時期を目安に、果面にワックスが感じられるようになり、デンプン指数が1以下になったことを確認して収穫してください。
- イ 越年販売の場合は、デンプンが若干残っている状態で収穫することで、収穫後約4ヶ月の貯蔵が可能となります。ただし、早く収穫するとやけ病が多くなり、遅く収穫すると貯蔵して4～5ヶ月ころから内部褐変が見られる場合がありますので、注意してください。

(4) お礼肥の施用

樹の衰弱がみられる場合には、早生・中生種では9月下旬以降、晩生種では10月中下旬以降からそれぞれ落葉までに施肥を実施します。施肥量は、成木で多くても10a当たり窒素成分5kgを目安としてください。

(5) 病害虫防除

黒星病の発病葉(写真1)は翌年の伝染源となるため、葉摘み作業等の際に発病が確認された葉は見つけ次第摘み取り、黒星病の罹病果も含め土中に埋没させるか焼却するなどして処分してください。また、炭疽病や輪紋病など果実腐敗病も散見されますので、黒星病と同様に適正に処分します。



写真1 黒星病の病斑(病斑部は古くなると隆起する)



写真2 黒星病の果実病斑

3 気象災害対策

(1) 台風対策

10月に入っても、まだまだ台風は多く発生します。強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、気象情報に注意し、場合によっては台風の接近前に収穫可能な品種は収穫を進めるなど、被害を最小限にできるように対策をとってください。

なお、技術の詳細については9月16日発行の「号外 台風対策」を参照してください。

(2) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨など、園地内が過湿となった場合、裂果や根部の障害による樹勢衰弱の要因となります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を実施します。

次号は10月27日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

農作業 ゆとりと声かけ 二刀流

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。